

白鳳文化 P.40～;『ゼミナール』P.11

☆7世紀後半から8世紀初頭にかけての天武・持統朝を中心とする文化 [図表P.61]

1. 官立の大寺院（官大寺）の建立 [図表P.61]

- 藤原京の
四大寺
- 大官大寺…百濟大寺、高市大寺ともいい、平城京遷都後は大安寺と称す。
 - 1 薬師寺…天武天皇が皇后(持統)の病氣平癒を祈って発願し、藤原京で完成。
 - 飛鳥寺(法興寺)…平城京に移築されたのち「元興寺」と称する。
 - 川原寺(弘福寺)…齊明天皇の宮跡という。平城京に移されず、衰えた。

【白鳳寺院建築の代表】

- * 2 薬師寺東塔…各階に3 裳階 のついた三重塔。4 フェノロサ によって「凍れる音楽」とよばれ、賞賛された。

2. 仏像 [図表P.62] ～飛鳥仏では感じられなかった豊かな量感と写実性を特徴とする

- * 5 薬師寺 金堂薬師三尊像…薬師如来と脇侍の日光・月光菩薩からなる金銅像。
微妙に変化した姿勢にみられる柔らかな肉体表表現の美しさは飛鳥仏にはなかったものである。
- * 6 興福寺仏頭…頭部のみしか現存しないが、童顔で豊か
・柔らかな表情は白鳳仏の典型。もともとは7 山田寺 [図表P.59右上] の本尊であったものが平安末期に興福寺僧侶(僧兵)によって強奪されたものといわれる。
- * 薬師寺東院堂聖観音像…薬師三尊像とならぶ白鳳仏の傑作。
- * 法隆寺夢違観音像…悪夢を見たときに祈ればよい夢に変えてくれるという伝説がある。



3. 壁画 [図表P.63]

- * 8 法隆寺金堂壁画…薬師・釈迦・阿弥陀・弥勒の4浄土を大壁に描く。1949年焼損。
この壁画の焼損をきっかけに1950年、9 文化財保護法 が制定された。ガンダーラ美術の影響が強く、インド・アジャンター石窟群の壁画に類似。
- * 10 高松塚古墳壁画…1972年、奈良県明日香村で発見された古墳の壁画。四方に青龍・白虎・朱雀・玄武の4神と男女群像が描かれる。

4. 歌謡

- ①漢詩文 おおつのみこ 大津皇子など→奈良時代の詩集『11 懐風藻』に収録
- ②和歌 柿本人麻呂、額田王、天智天皇、天武天皇、持統天皇など
→奈良時代の歌集『12 万葉集』に収録

◇ 図表P.61左上に白鳳文化の特徴および前後の文化との簡単な比較が載っています。飛鳥文化が最初の仏教文化といえますが、この白鳳文化では天皇によって建てられたり保護された官立の大寺院が増加してきます。その象徴が薬師寺であり、図表P.61右下の「大官大寺」となります。

また白鳳文化は唐の影響を受けた最初の文化とされます。白鳳文化=初唐文化の影響、天平文化(奈良時代)=盛唐文化の影響、弘仁貞観文化(平安時代初期)=晩唐文化の影響という感じで抑えておいてください。

◇ 白鳳美術の代表ともいえる興福寺仏頭ですが、図表の説明文を読んでも、「ん?どういうこと?」と見返すような不思議なフレーズが書かれています。説明文の中にある「興福寺は1180年の兵火で焼亡。のち復興された東金堂の本尊としてこの仏像が奪取、安置された。」という記述。まあ書いてある通りなのですが、この仏像は焼失した興福寺が再建されたとき、建物(東金堂)は再建されたが、中に納める仏像までは制作できなかったのではかの寺(山田寺)から奪ってきたという歴史を持った仏像だったのです。なぜ興福寺はこんな自分勝手な、あきらかに非常識な行為を行ったのでしょうか?詳しいことはこの事件が起こる少し前の平安末期の文化で明らかになるのですが、ここで簡潔に触れておきます。

興福寺は藤原氏の氏寺でした。それが興福寺の横暴な行動を引き起こしていました。藤原氏とはどういう一族であったか、中学校の歴史でも大きく取り上げられていましたね。そうです。藤原氏は天皇の代わりに政治を行う [] や [] の地位に独占的に就任し、藤原道長などは「この世をば [] とぞ思う 望月の欠けたることも なしと思えば」という有名な歌を残していました。その権勢をバックに興福寺は延暦寺とともに仏教界ばかりか政治にも圧力をかける存在になっていたのです。

立派な建物ができたが仏像がまだ無い。そこで山田寺の有名な仏像を盗んできて据えたのだ、と当時の貴族である九条兼実が日記に記しています。現在の興福寺のホームページにも仏頭の紹介がもちろんあるのですが、「山田寺から勝手にとってきたものらしいです」とは書きにくいので、さすがにそこはぼかしてありました。

※ 今回の確認プリントは①のみです。右側の旧国名は少しずつ慣れていってください。今後定期テストのたびに旧国名が現在の何県あたりかということがわかっているかどうか試すかもしれません。

[] = 摂政 [] = 関白 [] = 我が世